

県医師会一次救急対策委員会
--中央医療地区の一次救急体制の現状とその問題点--

2012.11.2

金沢市医師会
渡部礼二

今日は金沢市医師会の時間外・休日医療体制の実態を報告し、そこでの問題である小児科の時間外・休日医療に関して、中央医療圏としての観点から問題点を眺めてみたいと思います。

金沢市の夜間急病診療所 PM 7:00 ~ PM 11:00

内科(77) : 1名 (): 協力医(医療機関)数
小児科(24、週1回大学) : 1名

金沢市の休日当番医 AM 9:00 ~ PM 6:00

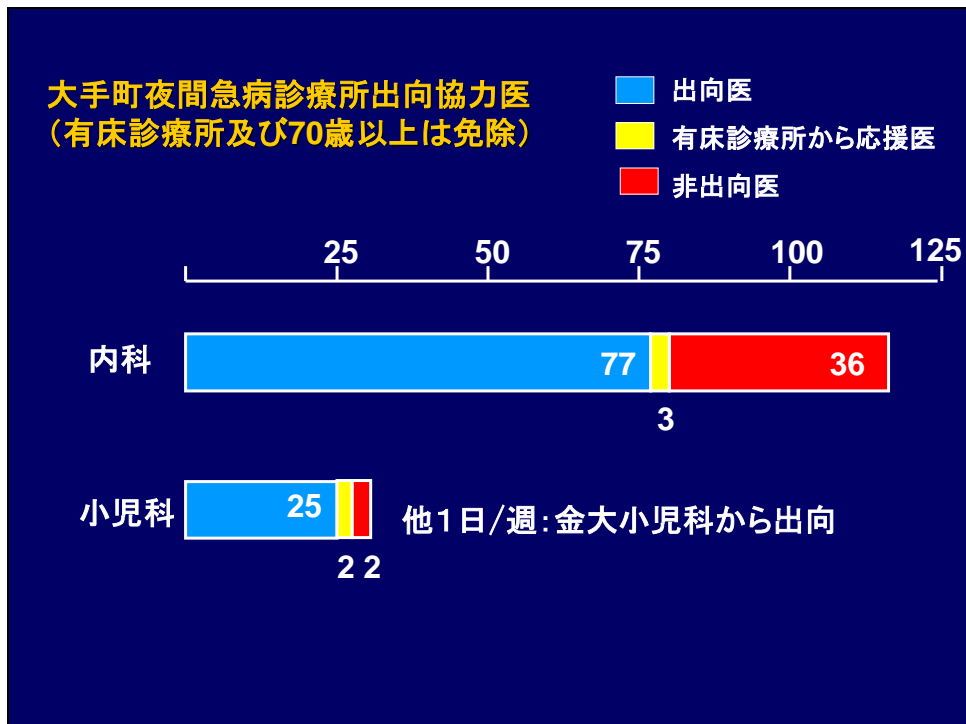
内科小児科	: 4ブロック(25~34)	各1ヶ所
小児科	: 全区(27)	1ヶ所
		2ヶ所(年末、1~2月Flu流行期、GW)
整形外科	: 全区(31)	1ヶ所
外科	: 2ブロック(18, 21)	各1ヶ所
産婦人科	: 全区(22)	1ヶ所
眼科	: 全区(23)	1ヶ所
耳鼻咽喉科	: 全区(12)	1ヶ所
皮膚泌尿器科	: 全区(29)	1ヶ所

- ・ 医師会としての時間外・休日一次医療体制です。

大手町の夜間急病診療所で内科と小児科を毎日準夜帯に診療しております。

日曜当番医は内科が市内を4ブロックに分け1本ずつ、小児科は全体で1本ですが、年末年始、インフルエンザ流行期、5月のゴールデンウィークには2本、外科は2本当番医が立っています。他、整形外科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚泌尿器科で夫々1本ずつ立っています。

()内の数字は協力医療機関・協力医師数であります。



大手町夜間急病診療所へ出向している協力医数であります。

有床診療所と70歳以上は免除されております。内科では該当医師の1/4、小児科は2人の医師が都合で出向されておられません。

大手町夜間診療所・時間外・当番医のバックアップ

() : 協力医療機関数

	平日	日祭日
一次	大手町夜間診療所	当番医
二次	各々1ヶ所以上 / 日: 内科(13) 小児科(6) 外科(12) 整形外科(9) 脳血管障害(1) 循環器系(1) 全般(1) 1日 / 週: 皮膚科(2) 1日 / 隔週: 脳神経外科(1)	各々1ヶ所以上: 内科(9) 小児科(5) 外科(8)
三次	全科(2)、小児科(1)	

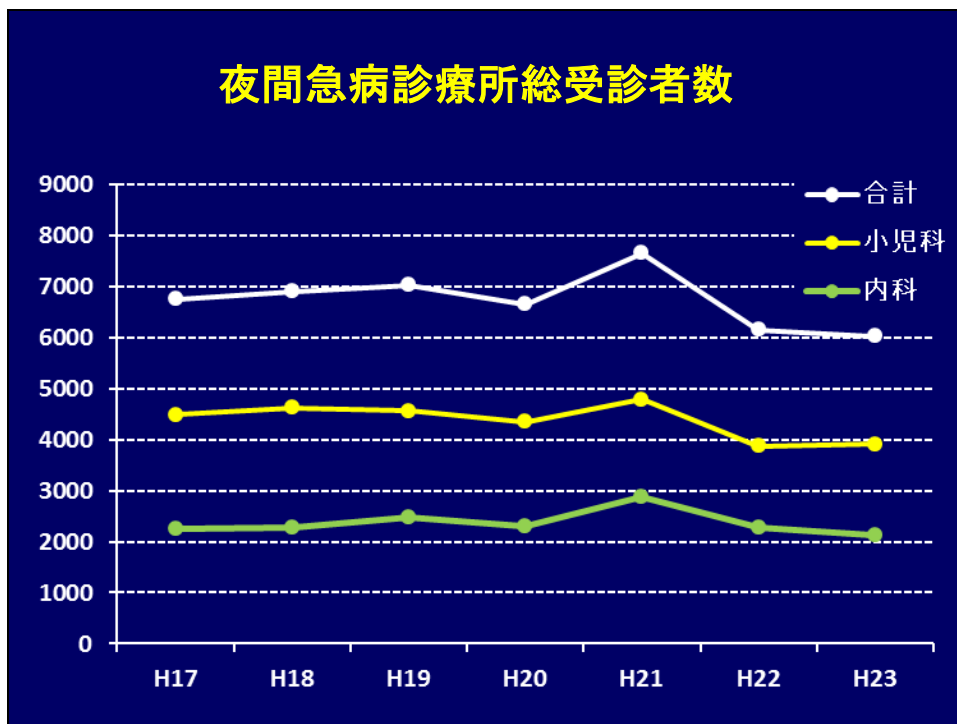
- ・ 平日の夜間急病診療所、内科小児科以外の診療科と休日当番医のバックアップ体制であります。()内の数はその協力医療機関数であります。

夜間急病診療所(大手町)

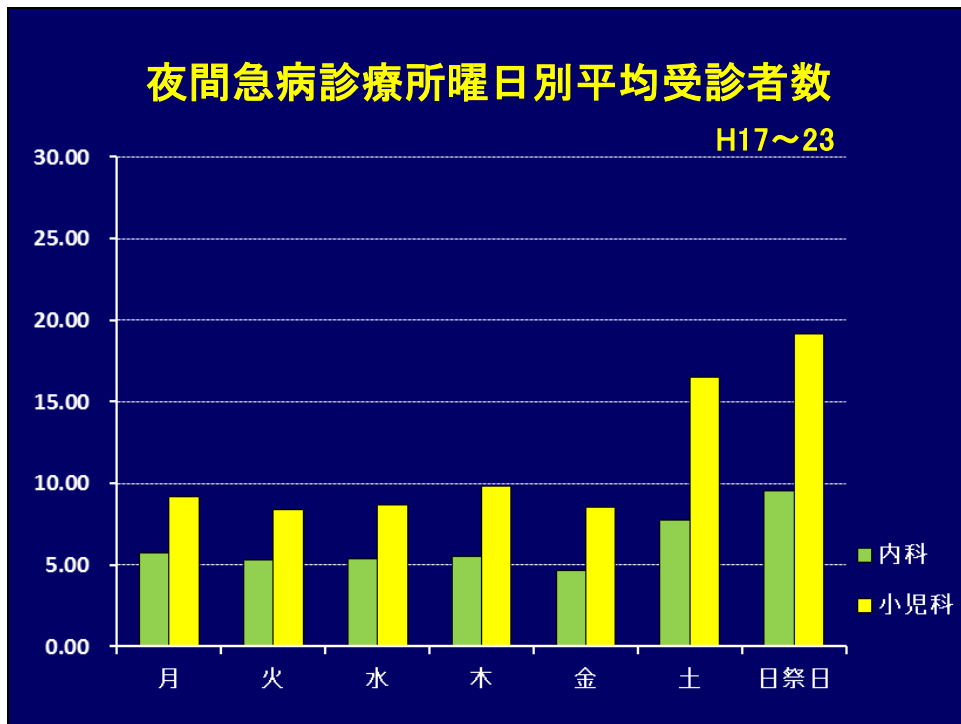
内科
小児科

診療時間: 19:00~23:00

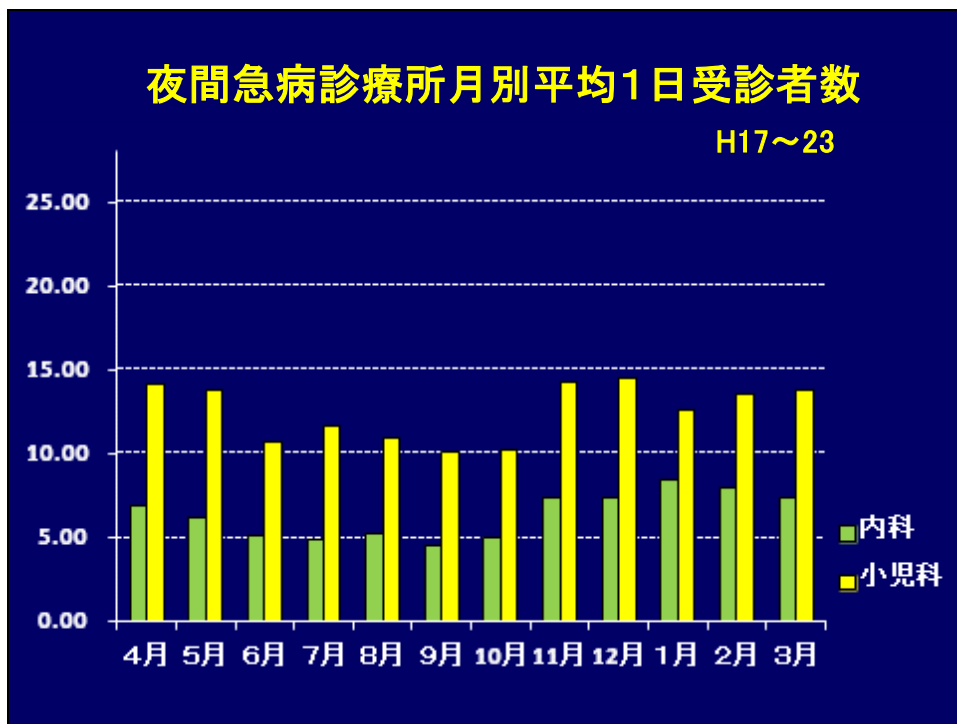
さて、ここから大手町の夜間急病診療所についてであります。内科と小児科が毎日19時から23時まで診療しています。それ以降は電話がかかるとトーキーで案内しております。



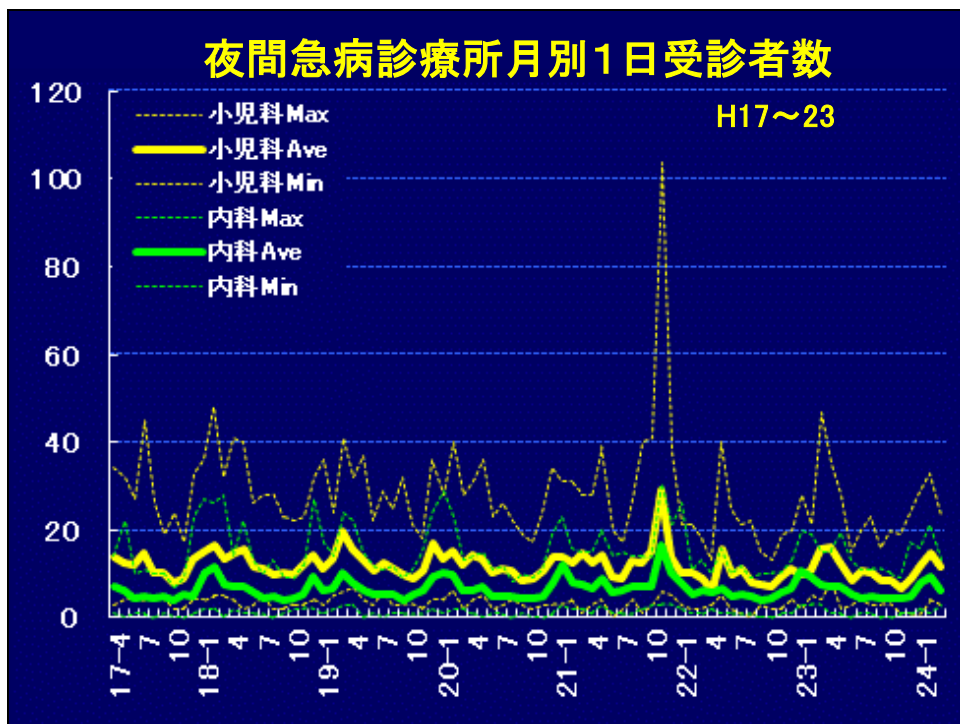
平成17年からの年間受診者数の変遷であります。黄色が小児科、緑が内科であります。小児科は内科の倍位の受診者数があります。



曜日別1日平均受診者数であります。土曜日、休祭日が1.5倍ないし2倍受診者数があります。小児科は10人から20人、内科は5人から10人受診者があります。



月別の平均受診者数であります。



月別の1日最大、平均、最小受診者数の変遷であります。飛び抜けて高いのは新型インフルエンザの時であります。小児科は102名の受診者があり、大きい児は内科の先生に診てもらい、小児科は応援医師を含め3人で診察をしました。



夜間診療に殺到する患者
—22日午後9時半、金沢市内の診療所

新型インフル

当番医に患者殺到

県内病院など分散に苦慮

新型インフルエンザの感染拡大が続く中、連休中の当番医や夜間診療窓口に向って患者が集中し、混乱を来している。

22日も待合室はパンク状態で、100人待ちの状況が発生する診療所も。駐車場に入りきらない患者が路上に列を

らないうちが路上に列をなし、病院側は殺到する来院者を分散する対応に追われた。

内科・小児科の夜間診療を行う金沢市大手町の金沢総合健康センター夜間急病診療所で、小児科の医師を2

人増やして対応。午後10時半時点で120人の患者を受け付けた。発熱した中学1年生

の孫を連れてきた同市の無職男性(73)は「3時間以上、車中で待つた。これだけ流行している状況だから仕方がない」とあきらめの表情を浮かべた。

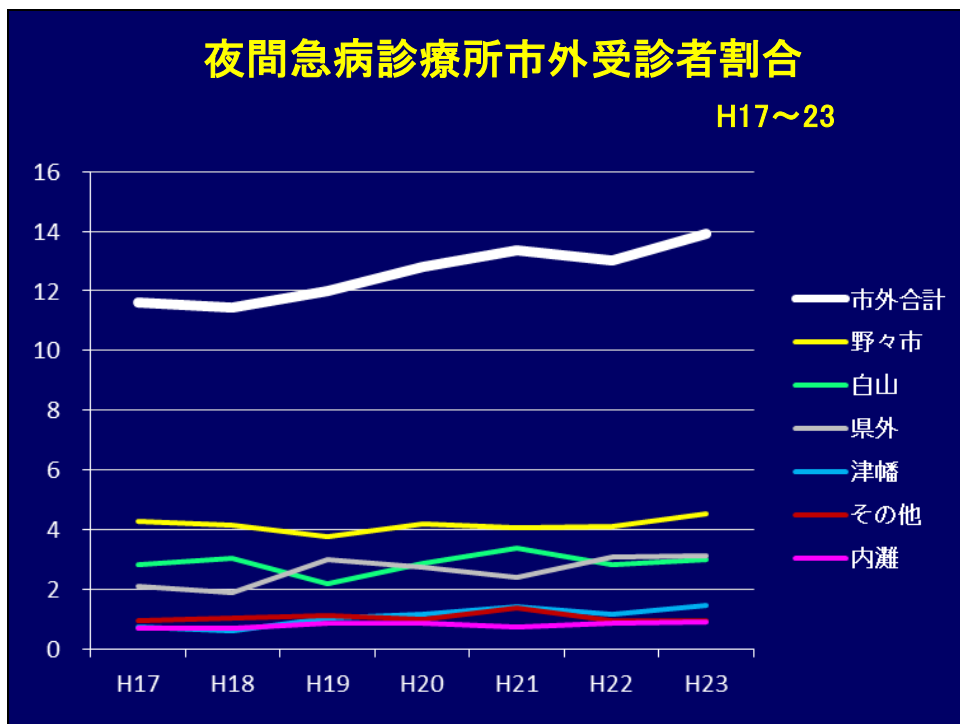
小松市の南加賀急病センターでは、「平年同期比で2倍以上、先週末と比べても1.5倍以上」の患者が殺到し、インフルエンザの検査キットも品切れ状態に。「医師、看護師ともオーバーワークだ」とスタッフの疲労を懸念する。

河北郡市1市2町の

休日当番医を務めた秋山クリニック(内灘町)では、午後9時半までに110人が治療を受けた。診察の順番が近づいた時点で自宅待機している患者に電話連絡を入れるなどの対応を取った。

県内では休診予定だった医療機関が臨時に診療したところもあったという。

これは翌日の北国新聞であります。



受診者のうち15%弱が市外からの受診者であります。

日曜当番医

9:00~18:00

内科小児科 :4ブロック(25~34) 各1ヶ所
小児科 :全区(27) 1ヶ所
2ヶ所

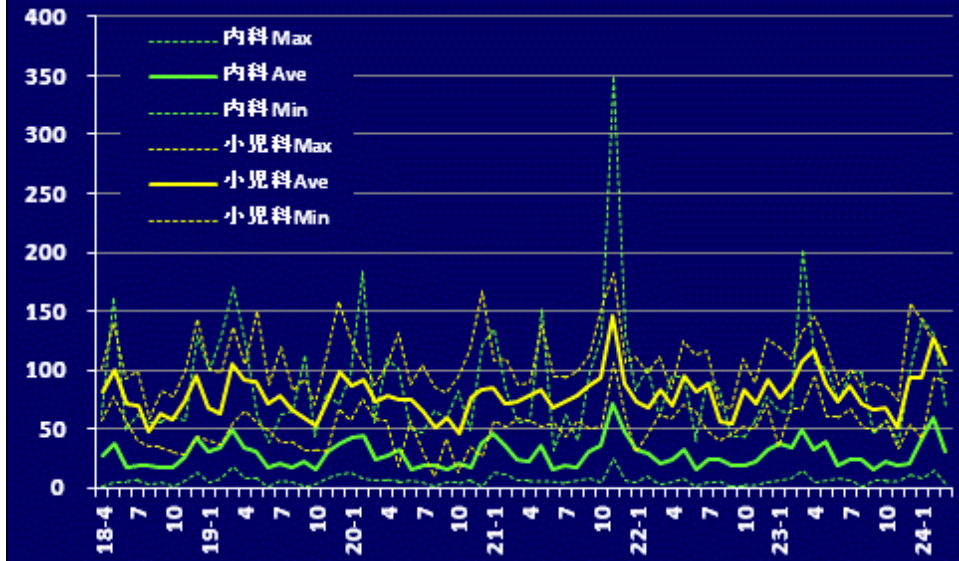
(年末、1~2月Flu流行期、GW)

整形外科 :全区(31) 1ヶ所
外科 :2ブロック(18, 21) 各1ヶ所
産婦人科 :全区(22) 1ヶ所
眼科 :全区(23) 1ヶ所
耳鼻咽喉科 :全区(12) 1ヶ所
皮膚泌尿器科:全区(29) 1ヶ所

ここから日曜当番医であります。

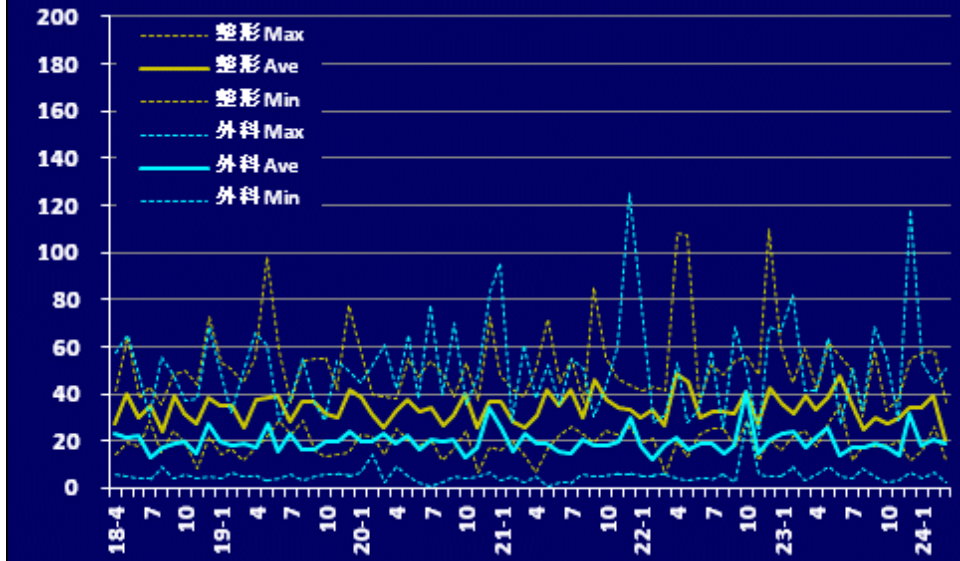
日曜当番医月別1日受診者数(小児科・内科)

H18~23



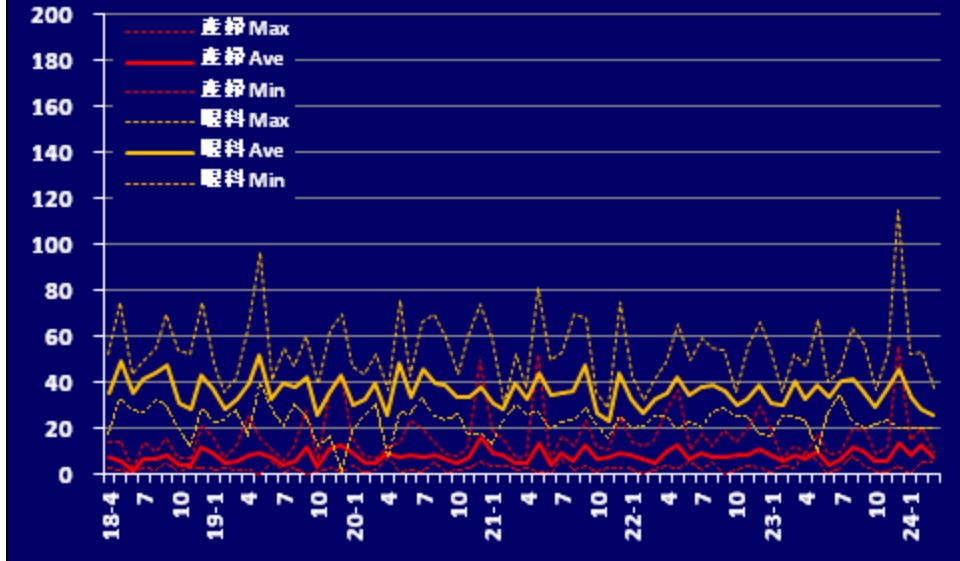
小児科と内科の月別受診者数の最大・平均・最少受診者数であります。小児科は平均50から100人の受診があり、冬場は100人から150人の受診があり限界を超しており、昼食を摂れない事もしばしばであります。内科の非常に多いのは新型インフルエンザの時の内科小児科標榜している病院で応援医師で凌いだそうです。

日曜当番医月別1日受診者数 (整形外科・外科) H18~23



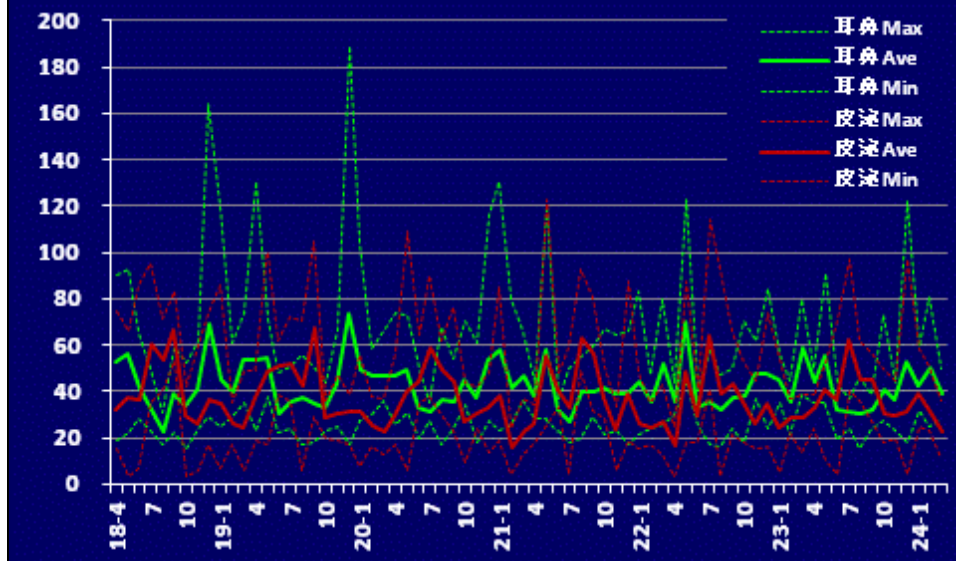
整形外科と外科です。人数のスケールが内科小児科と
違ってきます。

日曜当番医月別1日受診者数 (産婦人科・眼科)H18~23



産婦人科と眼科です。

日曜当番医月別1日受診者数 (耳鼻咽喉科・泌尿器皮膚科)H18~23



耳鼻咽喉科と皮膚泌尿器科です。

当番医回数/H23年

当番医	区数	協力医療機関数	総回数	平均回数/年・施設
内科・小児科	4	118 (25~34)	70x4 (70)	2.37 (2.05~2.80)
小児科	1~2	27	80	2.96
整形外科	1	31	70	2.26
外科	2	37 (18~21)	70x2 (70)	3.78 (3.33~3.89)
産婦人科	1	22	70	3.18
眼科	1	23	70	3.04
耳鼻咽喉科	1	12	70	5.83
皮膚泌尿器科	1	29	70	2.41

- 23年度の当番医の平均回数であります。平均2~3回ですが、耳鼻咽喉科は12人で廻している訳で年に約6回で、2月に1回日曜日が潰れる訳です。

他にスライドにしましたが大手町夜間急病診療所への出向が内科は平均4.74回、小児科は14.23回あります。

小まとめ (金沢市夜間急病診療所・当番医)

- ・小児科医の急病診療所への出向回数多い
(小児科医が少ない)
- ・小児科当番医の受診患者数が多すぎる
- ・耳鼻咽喉科の当番医の回数が多すぎる
(耳鼻咽喉科医が少ない)

- ・ 金沢市の夜間急病診療所と当番医の問題点です。

小児科と耳鼻咽喉科が問題であります。

小児科

夜間急病診療所(大手町)

日曜当番医

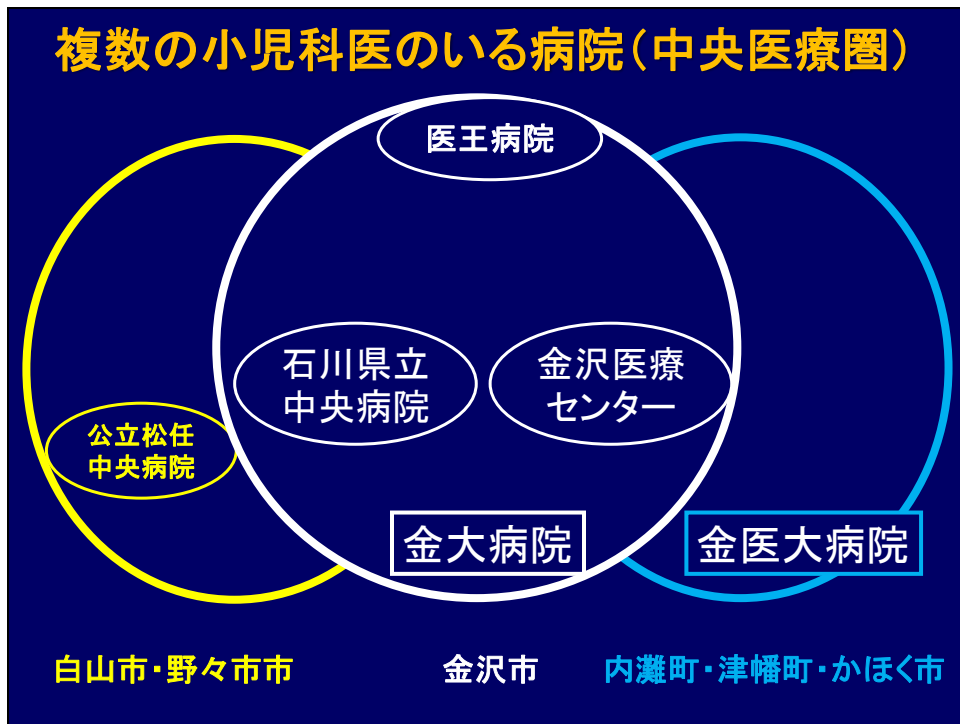
県中小児科準夜診察

(地域連携小児夜間・休日診療)

夜間小児救急電話相談(#8000)

- ・ 小児科について問題点が多く、先日中央医療圏として時間外・当番医の問題をまとめる機会がありましたので、それを紹介します。

小児科は大手町急病診療所と当番医だけではなく、県中の準夜の応援、電話相談にも駆り出されております。



- ・ 中央医療圏で複数の小児科のいる病院であります。
松任は2人、医王病院は郊外で二次医療は実質県中と医療センターであります。金大は3次であります。
- 。

平日準夜帯小児科診療体制(中央医療圏)

(): 担当協力医師数

	野々市・白山地区	金沢地区	内灘・津幡・かほく地区
一次	(一)	夜間急病診療所(22+水曜:大学)* 県立中央病院(8) 金沢医療センター(8)	(一)
二次	(一)	市中病院(6) **	(一)
三次	(一)	金大病院	(一)

* : ~23:00

** : 医療センター、医王病院、県立中央病院、聖霊病院、金沢日赤病院、社会保険病院

平日準夜帯の医療体制です。白山・野々市・内灘・津幡・かほく地区は特に設定はなく、金沢市におんぶしております。大手町の夜間急病診療所は19時から23時までです。医療センターは終日診療を表明しております。県中は救急医療という看板の性で診療体制をとっております。二次は大手町の時間外急病診療所の後方病院という事で／6つの病院が持ち回りで担当しております。三次は金大病院です。医科大は内灘なので金沢市の医療体制には入っていません。

休祭日小児科診療体制(中央医療圏)

(): 担当医師数, 協力医療機関数

	野々市・白山地区	金沢地区	内灘・津幡・かほく地区
一次	当番医(10)※1	当番医(25+2(病院))※2 県立中央病院(8) 金沢医療センター(8)	内科系当番医
二次	(-)	市中病院(6)	(-)
三次	(-)	金大病院	(-)

※1: ~12:00
H23(10)→H24(8)

※2: ~18:00
年末年始
流感流行期 } :2医療機関
GW

休祭日です。野々市・白山地区は午前中だけの当番医で10の医療機関で回していましたが、今年度から8つの医療機関で回しています、金沢市は25の診療所と2つの病院で回していますが、年末年始、ゴールデンウィーク、インフルエンザ流行期は2本／当番医を立てています。そして県中と医療センターであります。なお、内灘・津幡・かほく地区は小児科当番医という訳ではなく、内科系当番医の中に組み込まれています。二次三次は平日準夜と同じであります。

深夜帯小児科医診療体制(中央医療圏)

(): 担当医師数

	野々市・白山地区	金沢地区	内灘・津幡・かほく地区
一次	(一)	(県立中央病院(8)) 金沢医療センター(8) 市内病院(6)	(一)
二次	(一)		(一)
三次	(一)	金大病院	(一)

深夜帯は、県中、医療センターと準夜帯の二次担当病院が担当し、三次の金大病院であります。

当直(当番)回数/H23年

当番医	協力医療機関数	総回数	平均回数/年・人
金沢市	診療所:25 病院:2	80	2.96
野々市・白山	診療所:10※	70	7.00

※: H23(10)→H24(8)、平均回数/年: 8.75

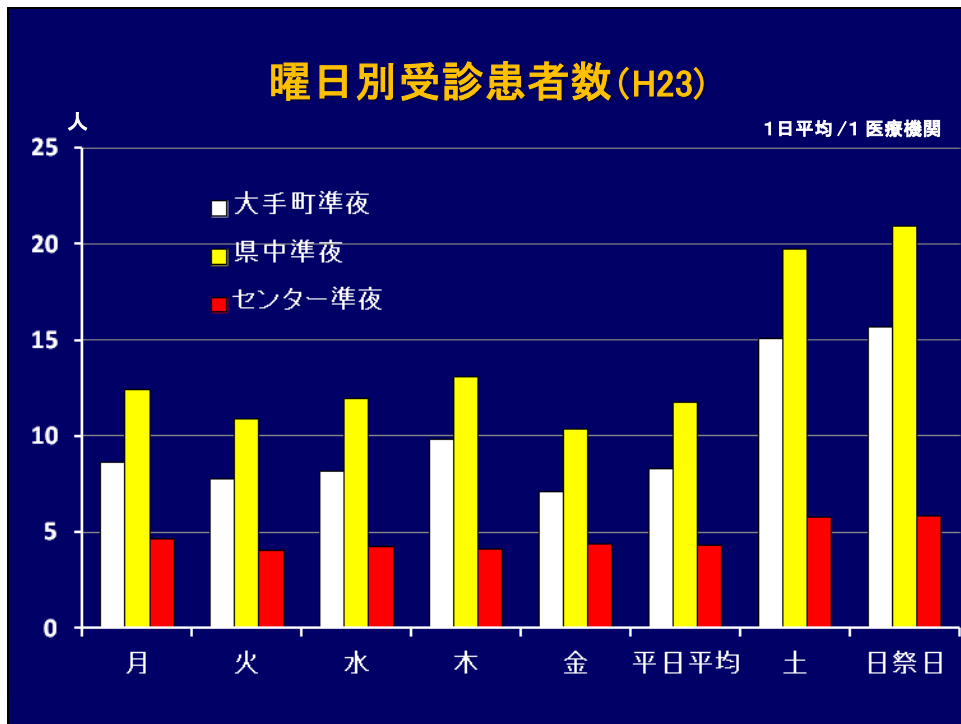
準夜帯	協力・当直医師数		総回数	平均回数/年・人
夜間急病診療所	市医師会	22	312	14.23
	大学	6	53	8.83
県立中央病院		8	365	45.75
医療センター		8	365	45.75

他 県立中央病院準夜: 1α/週(中央医療圏開業医8人(市内7名))

夜間小児救急電話相談: 毎日(県内小児科医33名(市内13名))

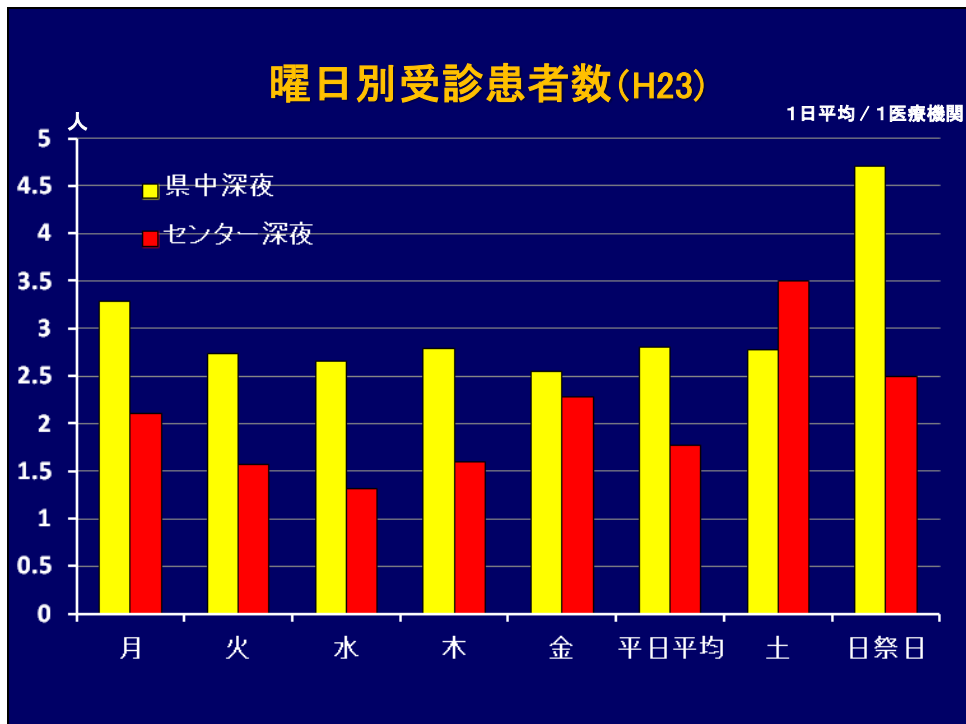
次に人の問題であります。上は祝祭日の当番医で金沢地区は年に約3回廻ってきます。野々市・白山地区は年に7回だったのですが、今年から2つ減ったので8.25回に増えました。金沢地区は高齢化が進んでおり、70歳以上の先生は5人が当番医を受け持っておられます。

下は準夜深夜であります。大手町は医師会から年に14.23回で当番医と合わせれば17回強のdutyがある訳です。大学の応援の先生は年に約9回、県中、医療センターは実に年に45.75回で、このどちら病院でもそれ以外に病院の日直も更にこなしております。なお、大手町は70歳以上の先生は免除されております。

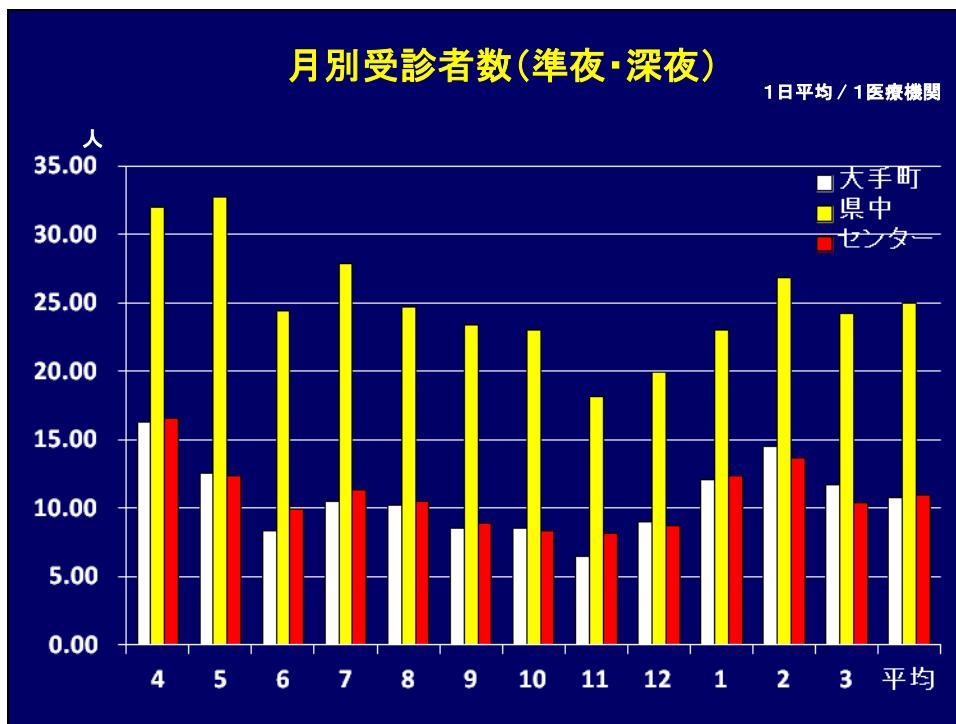


- さて、それらの診療所・病院で、時間外を受診患者数であります。

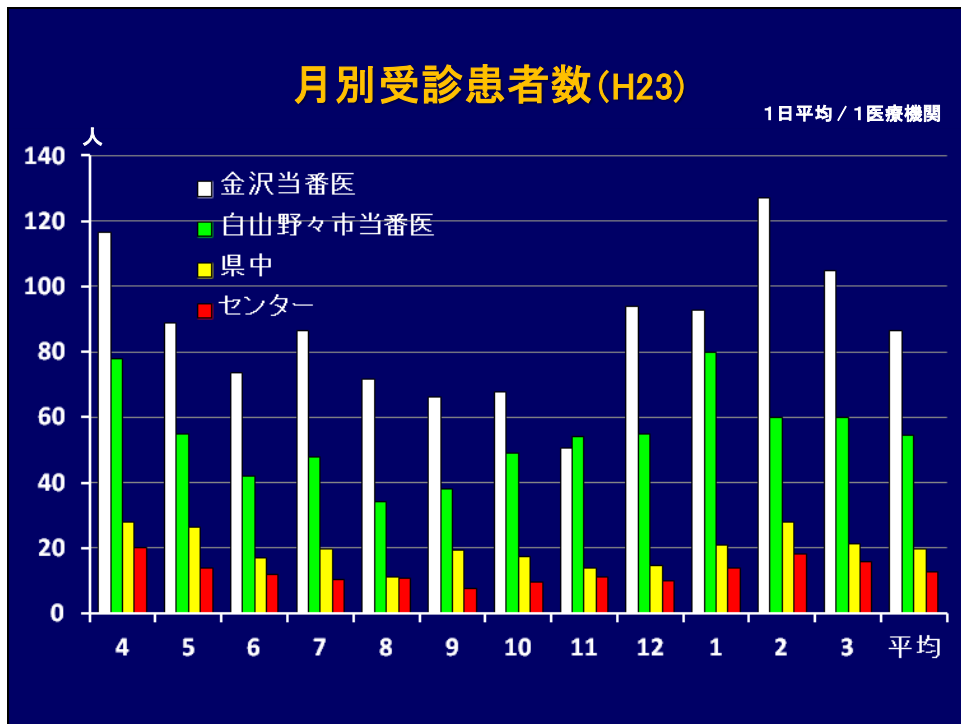
23年度のデータで、準夜帯です。白は大手町、黄色は県中、赤は医療センターです。年間の曜日別の一日平均であります。平日は／大手町は約8人、県中は約12人、医療センターは約5人受診します。土曜日、休祭日は受診患者が増えます。



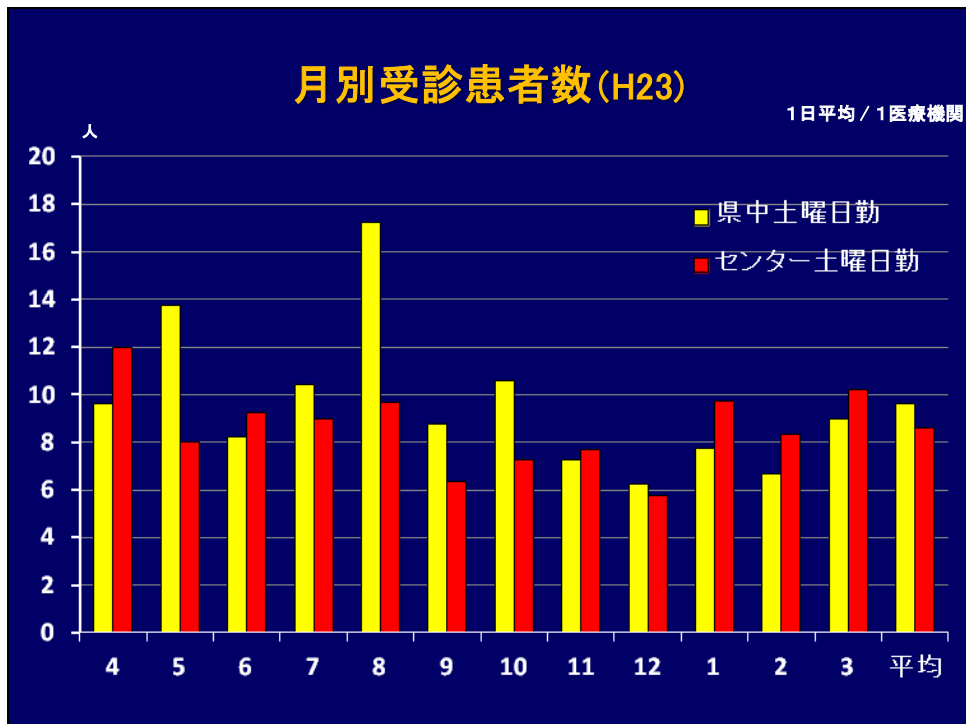
同じく深夜帯です、県中は平日3人弱、医療センターは2人弱の受診者があります。土曜・休祭日はやはり増加しております。このように受診患者数は平日、土曜日、休祭日と傾向が違うので、次からの「月別」は別として平日、土曜日、休祭日に分けてまとめました。



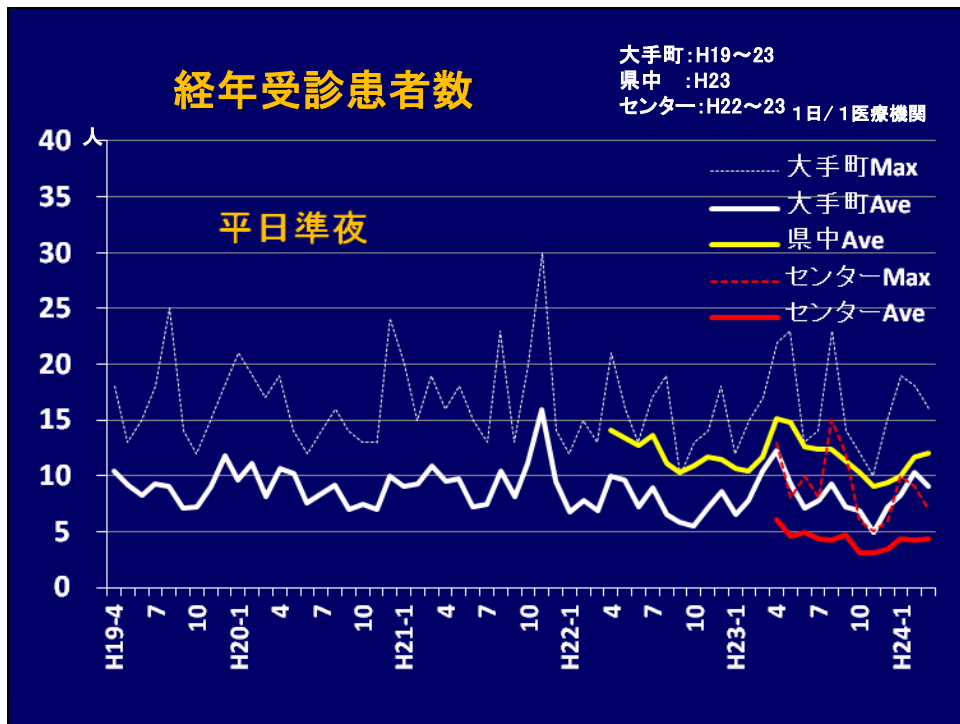
月別です。白色は大手町、黄色は県中、赤は医療センターの時間外受診者、つまり準夜・深夜の受診者数です。冬場が多く夏から秋にかけて少ない傾向にあります。



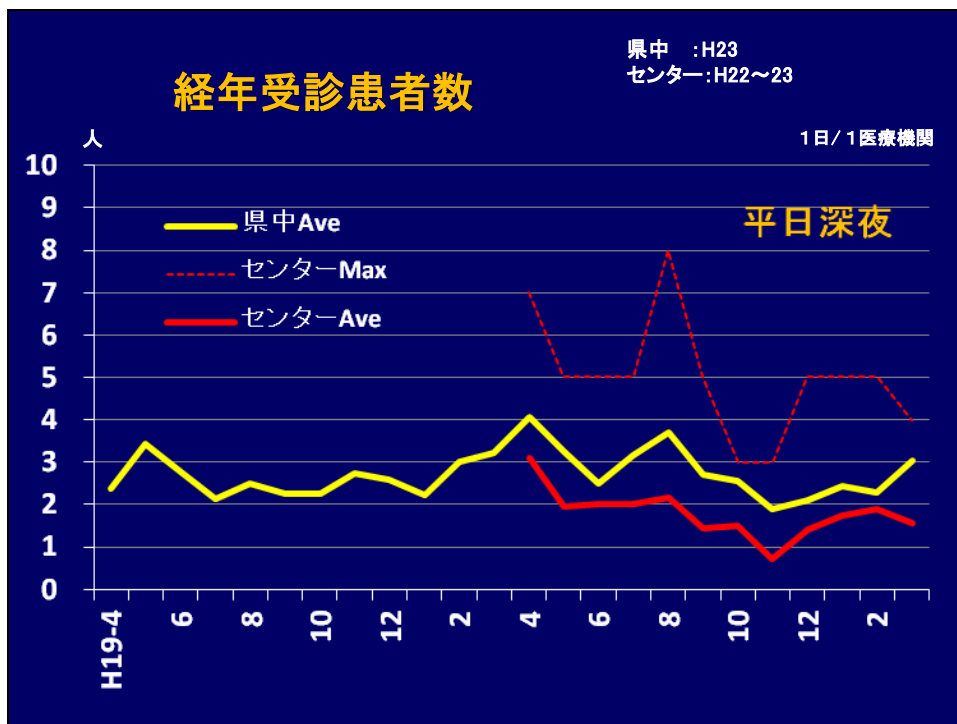
同じく月別の休祭日の受診者数です。当番医と休祭日の日中の県中・センターです。前のスライドと同じく冬場が多く夏から秋にかけ少ない傾向にあります。金沢の冬の当番医は平均100から120人で限界を越しております。昼食も取れないことが多くあります。緑の野々市・白山も半日ですが、冬から春は80人位受診者がいます。病院の県中は10から30人、医療センターは10人から20人が受診しています。



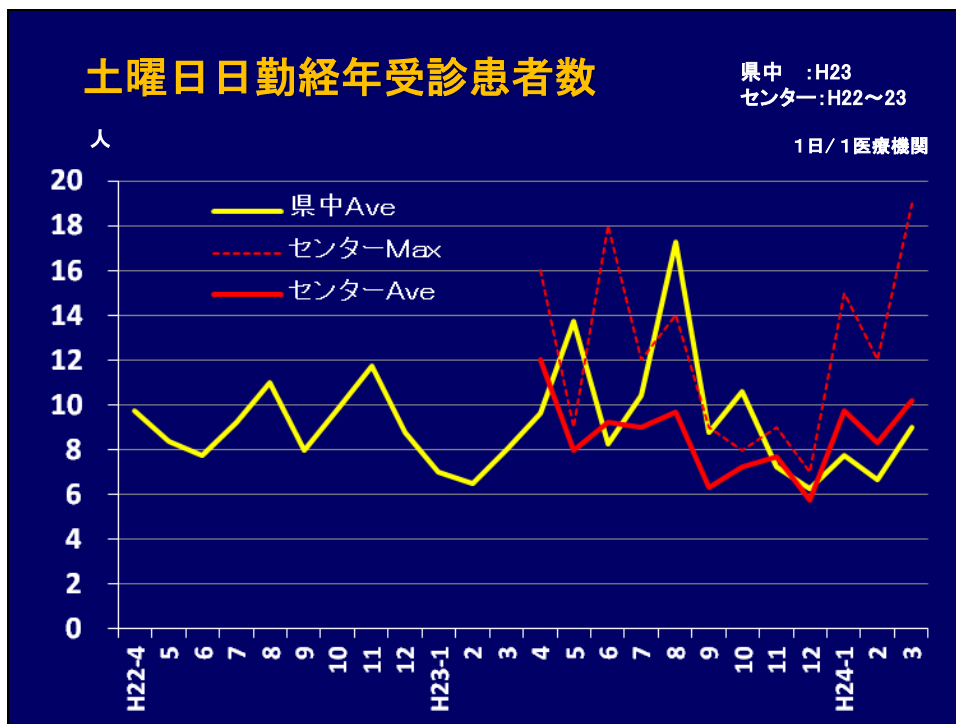
一般診療所が診療していて、休診日である県中と医療センターで当直医が対応する土曜日の日中の受診者数です。ともに大体8人前後の受診があります。県中の5月と8月が多いのは県外からの観光客等が多いのでしょうか？



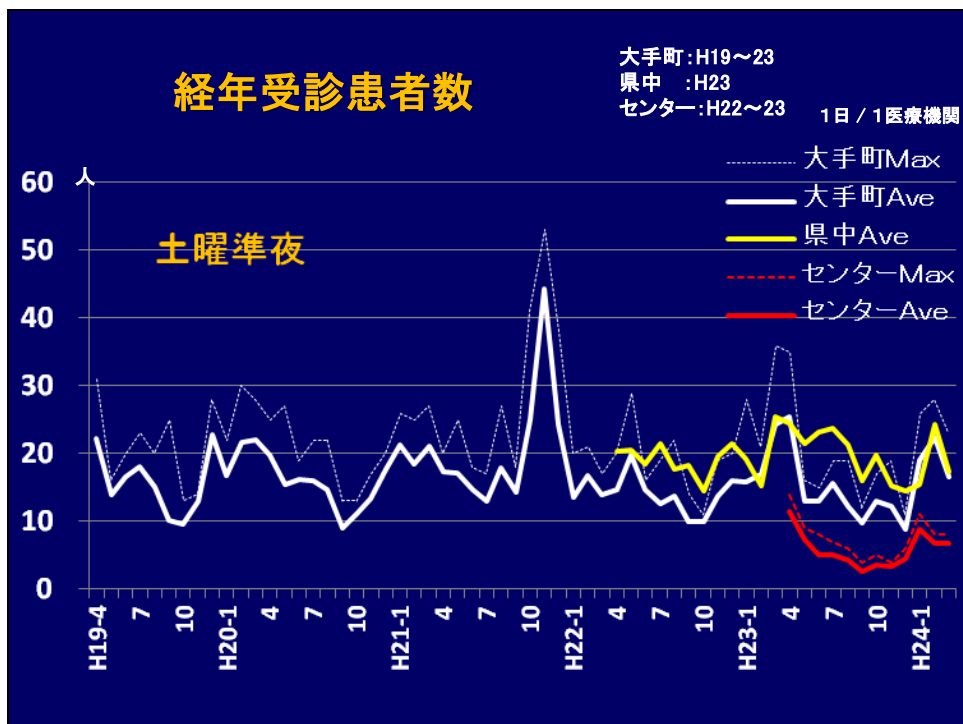
経年の月ごとの1日の平均受診者数です。ここからは平日、土曜日、休祭日で分けてあります。大手町は5年で平均と最大を白で、県中は2年間の平均だけを黄色で、医療センターは昨年1年間の平均と最大を赤で示してあります。データがコンピューターからの出力の問題でこのようになりました。これは平日準夜分です。大手町は平均10人前後ですが、Maxは25人になることもあります。県中は平均12-3人。センターは5人程度です。平成21年11月の高い山は新型インフルエンザの時です。



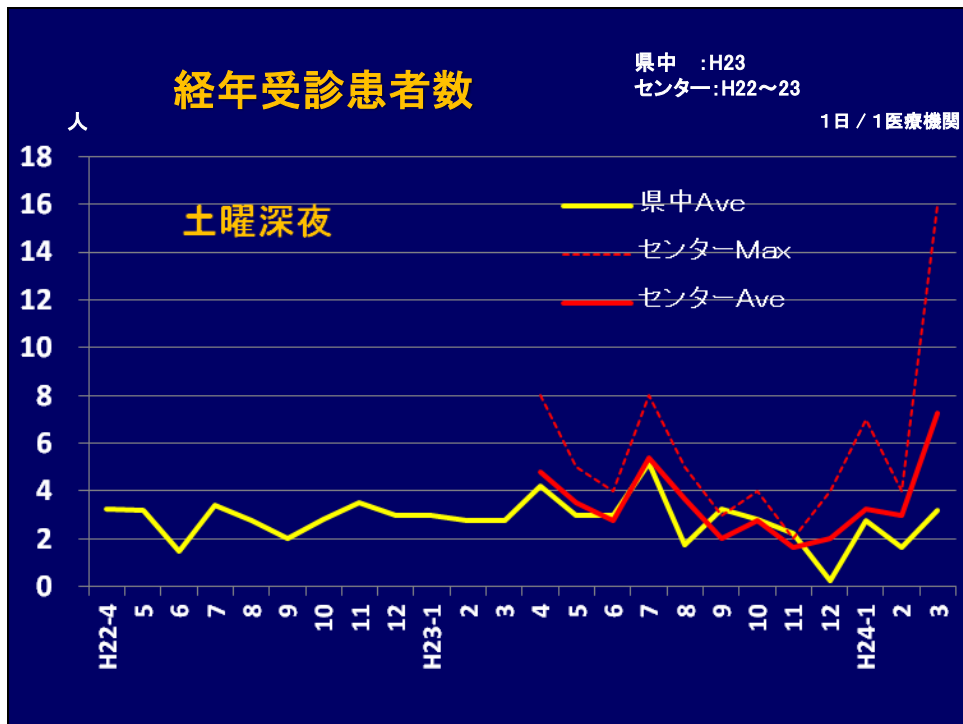
その平日深夜分で、県中と医療センターの分です。2～3人受診しています。



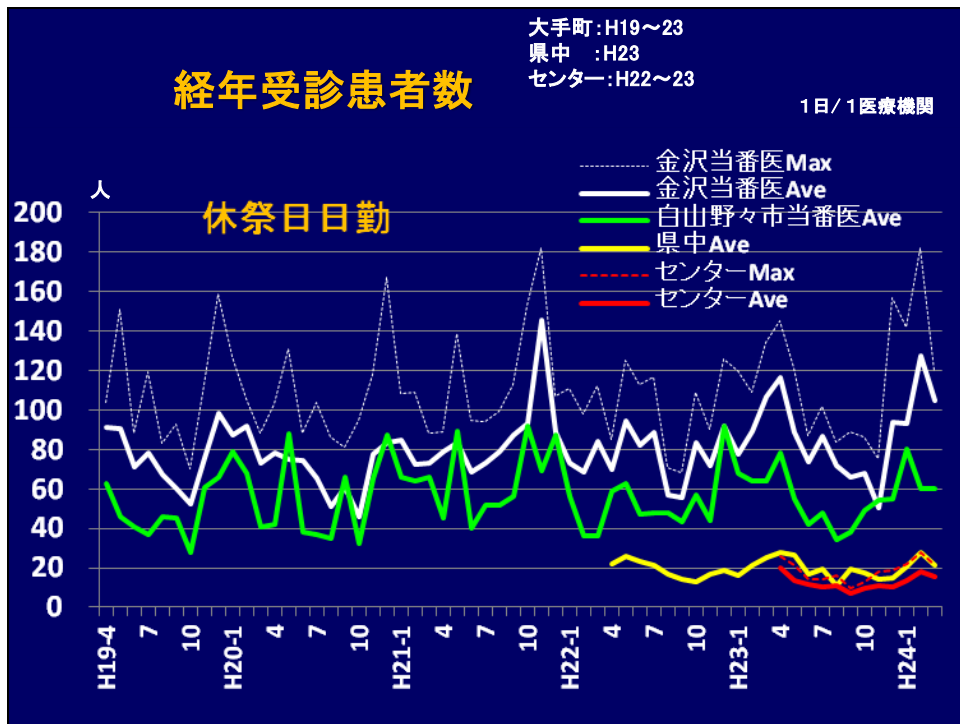
一般開業医が診察している病院の土曜日の日勤分です。県中と医療センターの分です。平均10人前後は受診しているようです。



土曜日の準夜帯です。大手町は平均15~20人前後受診しているようです。Maxは30人程度。平成21年の11月頃の高いのは新型インフルエンザ騒動の時のものです。県中は20人前後、センターは10人弱です。

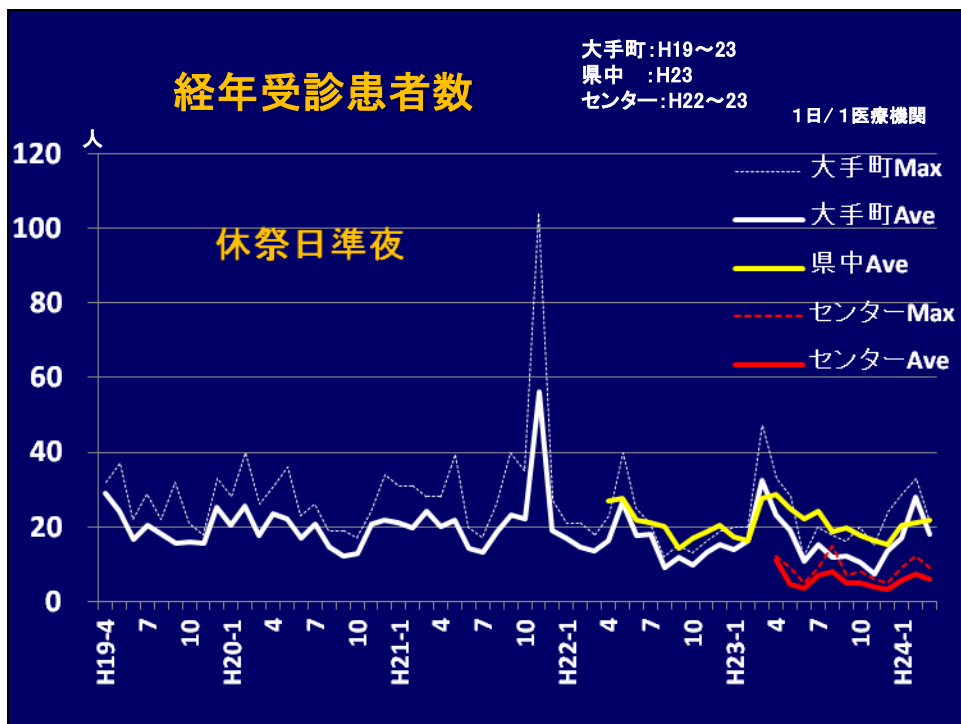


土曜日の深夜帯です。県中は4人弱。センターも同じ位でしょうか

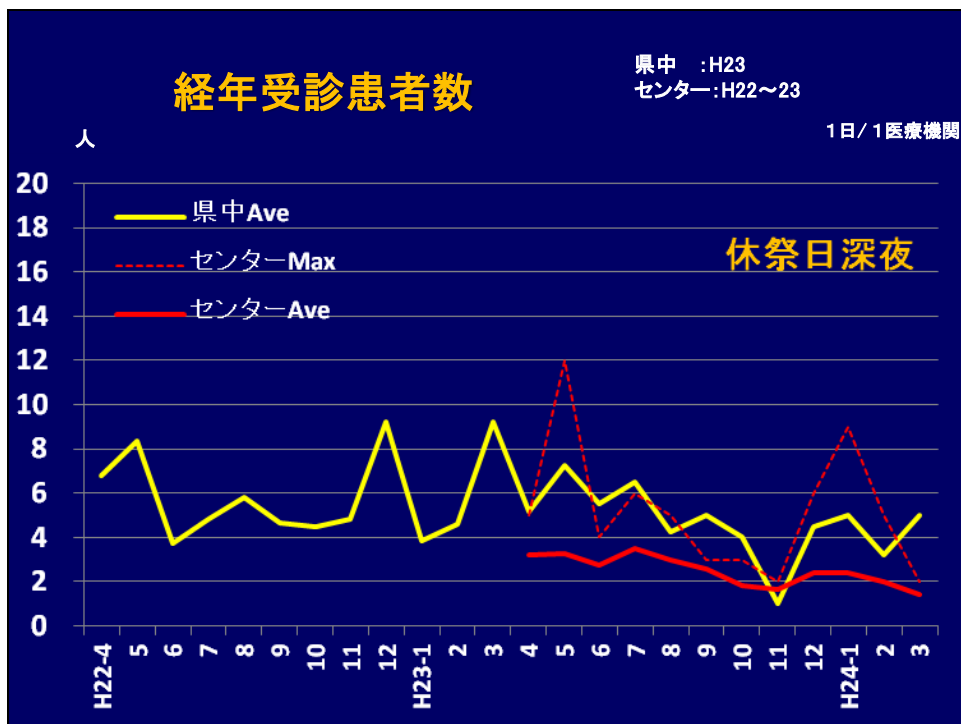


休祭日の日中です。緑は野々市・白山の半日の当番医で平均のみの数です60人前後でしょうか。金沢の当番医で平均80人前後で平均100人を超える月も幾つかあります。最大150を超えているのも幾つかあります。どうやって診察しているのでしょうか。限界を越していると思われる。電子カルテを使用していると不可能でしょう。当番医の時は殆ど従業員全員出勤体制でしていると思われる。今年の冬に、週半ばに体調が悪いので週末の当番医はできないと連絡がありました。替りの当番医を立てるにも、医師一人だけで当番医はできません。従業員がいなければ当番医できません。まして患者数も平生より多く、殆ど新患であります。従業員は皆家庭を持っているので、すべての従業員の家族でのすべての予定を中止してもらおう訳にもいきません。殆ど当番医の

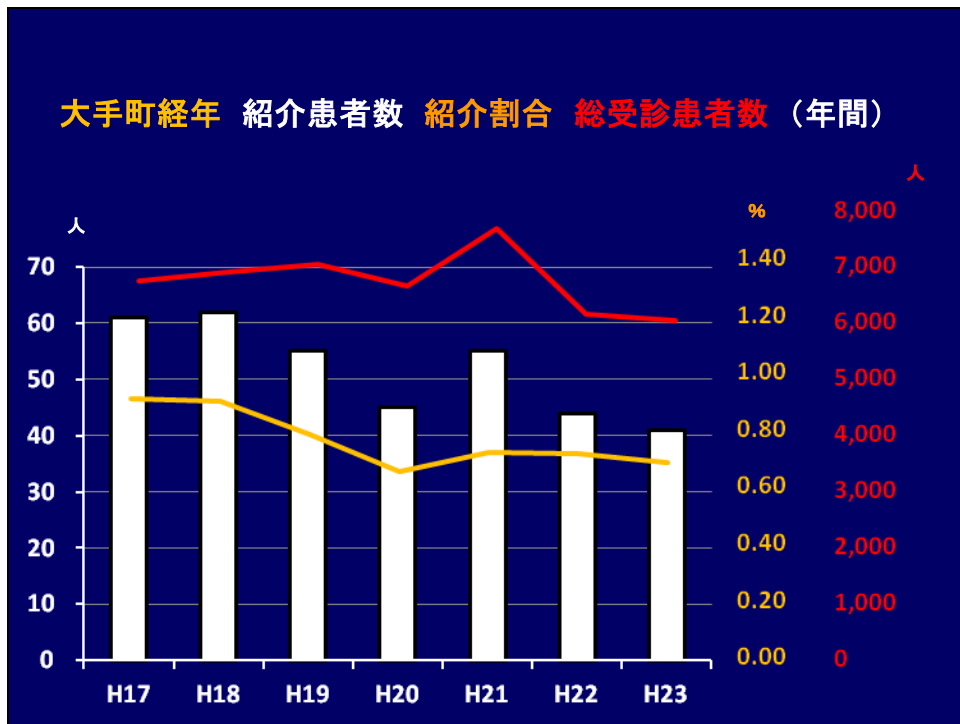
急な交替は不可能なのです。順に電話をかけまくり、その申し出に1つの診療所が替りを引き受けてもらえ、なんとかなりました。自己診療所での当番医制だと確かに収入はありますが、各々の診療所での当番医では患者数と交替が難しい問題があります。センター方式だと医師一人の出向で済みますし、急な応援も可能と思われます。県中、センターにも20人前後受診しております。



休祭日の準夜帯です。大手町は平均20人前後診ていますが、新型インフルエンザの時100人を越しました。小児科は応援医師と合わせて3人で診療しました。県中も20人前後、センターは5人前後でしょうか。

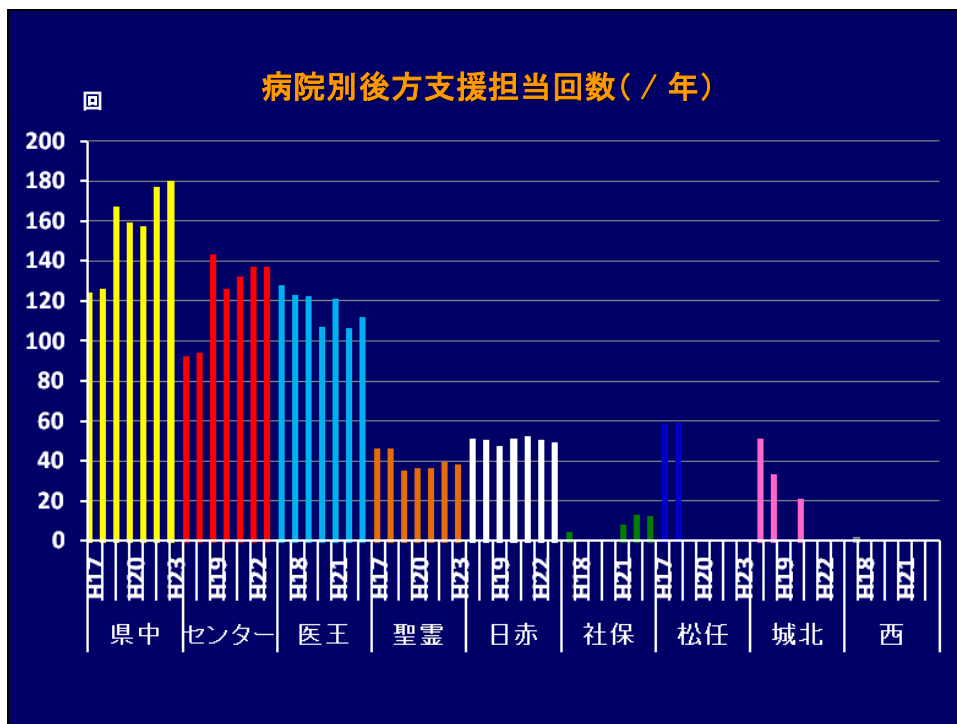


休祭日の深夜帯です。御苦勞様です。県中には5人前後、センターには2人前後受診しているようです。

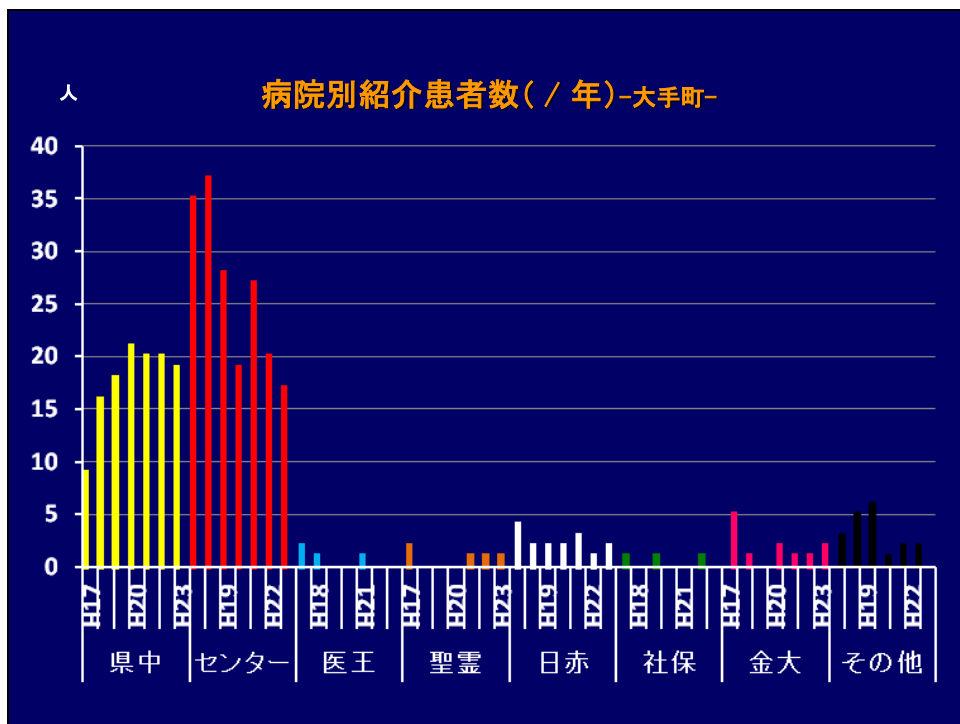


- ・ 大手町の夜間診療所に戻ります。やはり小児科です。

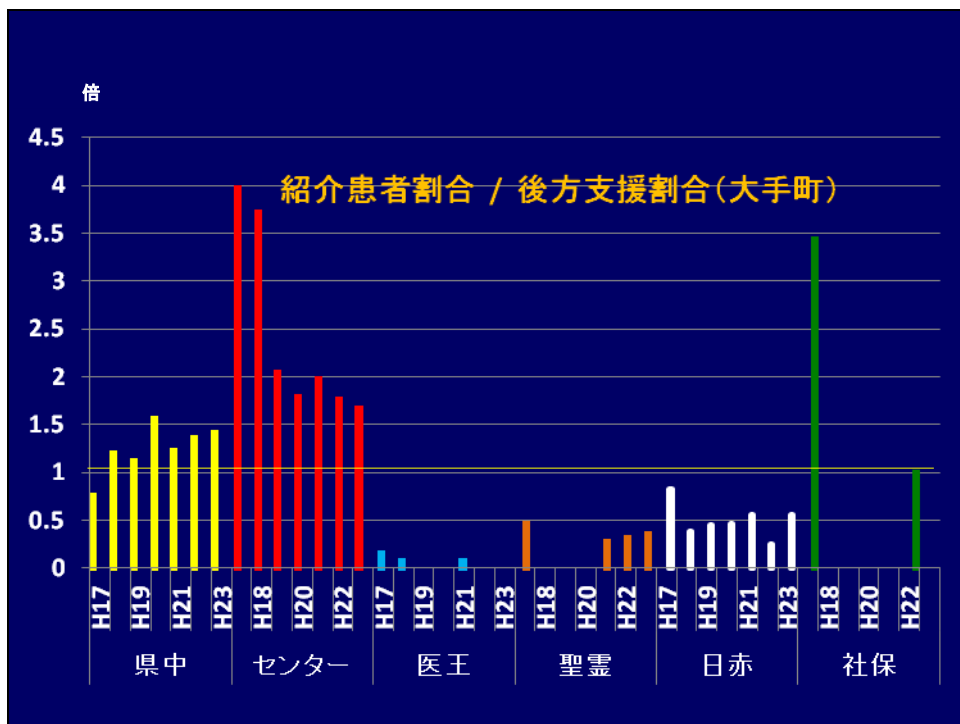
毎年6～7千人の内0.8%位が入院になっております。



さて、年間の二次の後方病院の担当日数です。県中が180回弱、医療センターと医王病院が130回位、聖霊病院と日赤が病院が50回(週一)位です。以前は松任中央病院や城北病院が入っていました。社保病院は10回位です。



うまく機能していればその様な割合で紹介入院患者になるはずですが、実際は年に県中、センターが15～20人で他は2～4人紹介されていて、県中と医療センターに偏っています。



- 後方支援担当割合を分母に紹介患者割合を割ってみると、医療センターの方が地域的な問題なのか多い傾向にありました。

大手町の急病診療所では患者数が多くはないので、薬剤の種類・検査なども充実できない現実があります。また、23時を過ぎると無人になるのでどうしてもその場限りの治療になる現実があります。

問題点

少ない小児科医師数

- ・ 開業医・病院勤務医も合わせても小児科医師の絶対数が少ない。
- ・ 開業医の高齢化に伴い時間外出向医数・当番医担当医数の減少傾向
- ・ 開業医・病院勤務医も出務回数が上限～上限を超している。

医療機関・医師数の地域的偏在

- ・ 金沢周辺の地域は医療機関の多い金沢に依存。

多い患者数

- ・ 当番医は医療機関の可能処理患者数を超している事が多い。
- ・ 病院勤務医は当直ではなく、勤務に近い状態である。

病院機能と分業

- ・ 大手町夜間急病診療所、県立中央病院、金沢医療センターにおいて一次医療として準夜帯の非効率的な診療。
- ・ 病院(勤務医)は一次のみならず二次医療機関の役目を担っている。
- ・ 二次後方病院として県中と医療センターに偏重。

以上が金沢市を中心とした中央医療圏における小児時間外医療の現実です。今までの小児科の問題点のまとめです。

少ない医師数として

- ・ 開業医・病院勤務医も合わせても小児科医師の絶対数が少ない。
- ・ 開業医の高齢化に伴うと時間外出向医数・当番医担当医数の減少傾向である。
- ・ 開業医・病院勤務医も出務回数が上限～上限を超している医療機関と医師数の地域的偏在の結果
- ・ 金沢周辺の地域は医療機関の多い金沢に依存している。

多い患者数により

- ・ 当番医は医療機関の可能処理患者数を超している事が多い。
- ・ 病院勤務医は当直ではなく、勤務に近い状態である。

病院機能とその分業の問題として

- ・ 大手町夜間急病診療所、県立中央病院、金沢医療センターにおいてそれぞれ一次医療として準夜帯の非効率な診療をしている。
- ・ 病院当直医(勤務医)は一次と二次医療を担っている。
- ・ 二次後方病院としては県中と医療センターに偏っている。
にまとめられると思う。

少ない小児科医師数

- ・ 開業医・病院勤務医も合わせても小児科医師の絶対数が少ない。
- ・ 開業医の高齢化に伴うと時間外出向医数・当番医担当医数の減少傾向
- ・ 開業医・病院勤務医も出務回数が上限～上限を超している。
- ・ 大手町夜間急病診療所、県立中央病院、金沢医療センターにおいて一次医療として準夜帯の非効率な診療。

地域的偏在

- ・ 金沢周辺の地域は医療機関の多い金沢に依存。



金沢市・野々市市白山市・内灘津幡単位ではなく

- ・ **中央医療圏としての医療体制
センター化**

少ない医師数とその地域的偏在に関して中央医療圏として中央医療圏として医療体制を構築し、地区地区での医師数が少ないのをカバーし、交通の便の良い所の一ヶ所でセンター化し、一次時間外小児医療を効率よくすることで解消できるのではないだろうか。平穩時の時間外は数人から10人前後の受診者の為に長い時間を小児科医が拘束されているのが実情であります。忙しい時でももともとの回数が少なくければ応援も要請し易くなります。電話相談は医師がしなくてもできます。金沢市小児科医会と市医師会は耳鼻科等他科を含めセンター化への要望を県医師会、県に働き掛ける方向性を出した所であります。

病院機能と分業

- ・ 大手町夜間急病診療所、県立中央病院、金沢医療センターにおいて一次医療として準夜帯の非効率的な診療。
- ・ 病院(勤務医)は一次のみならず二次医療機関の役目を担わねばならない。



数か所での一次時間外医療機関を

- ・ 一次の時間外診療は1ヶ所で

||

センター化

- ・ 二次医療機関は二次医療に専念

また時間外診療を少ない小児科医で効率よく実施する為には地域全体として考えなければなりません。各病院は要望と収入とめメントがあるので時間外診療はなかなかやめられない実情はありますが、小児科医は共倒れになり、きつい小児科を選ぶ学生も少なくなります。苦情が出ず、評価され、うまく行っても、それらは国、県、市と夫々出所が違いますが、元はすべて国民の同じ税金であります。駒の少ないなりに、コスト当り、時間当り、医師一人当たりの効率をよくする工夫をしなければなりません。その為にも全国的な傾向である時間外・当番医の中央医療圏としてのセンター化への移行が適しているように思われます。この縦割り行政に注文をつける事ができるのは小児科医集団と医師会しかないのではないのでしょうか。

比較的症状の軽い方への[?]お願い (休日や夜間に急な病気で困った時は、下記の医療機関等をご利用ください)

① 休日当番医

休日の応急的な医療や軽症の方に対応するため、地域の診療所等が当番で治療にあたっています。この当番医については、新聞や市町の広報などでご確認ください。

※「石川県医療・薬局機能情報提供システム」(<http://i-search.pref.ishikawa.jp/>)、または携帯電話でも検索できます。

携帯電話からのアクセス方法

以下のURL(ホームページアドレス)を、携帯電話のWebブラウザのURL(ホームページアドレス)欄に入力するか、携帯電話がQRコードに対応している場合には、右の画像を読み取ってアクセスしてください。

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/index.html>



② 休日夜間急患センター(365日毎日診療)

★ 金沢総合健康センター

夜間急病診療所(内科・小児科)

《所在地》金沢市大手町3-23(健康プラザ大手町西館1階)

《電話番号》076-222-0099 《FAX番号》076-222-5566

《診療時間》午後7時～午後11時

★ 南加賀急病センター(小児科・内科)

《所在地》小松市向本折町ホ60(小松市民病院南館1階)

《電話番号》0761-23-0099 《FAX番号》0761-23-0014

《診療時間》月～土:午後7時～午後10時30分

日・休日等:午前9時～午後0時、午後1時～午後10時30分

※(休日等)とは、祝日並びに1月2日、3日及び12月31日をいふ

なお、在宅当番医や休日夜間急患センターで受診され、入院や手術の必要がある場合は、救急病院等と連携して診療してもらえますので、ご安心ください。

③ 夜間小児救急電話相談(365日毎日実施)

お子さんが夜間に急な病気で事故で具合が悪い時、どのように対処すればよいか、電話で小児科医や看護師がアドバイスしています。

《電話番号》#8000 または 076-238-0099 《受付時間》午後6時～翌朝8時

日頃から、何でも相談できる『かかりつけ医』を持ち、早めの受診を心がけましょう

石川県健康福祉部地域医療推進室

- 少ない医師数に加え、多い受診者数の問題です。

一方これは県から出しているポスターです。行政は現場を知らずして、軽症で非救急な患者を当番医や時間外診療の患者を掘り起こしています。すなわちコンビニ化を推進しようとしています。

比較的症状の軽い方へのお願い



—— 休日や夜間に急な病気で困った時は、下記の医療機関等をご利用ください ——

休日当番医

- 休日の応急的な医療や軽症の方に対応するため、地域の診療所等が当番で治療にあたっています。
- この当番医については、新聞や市町の広報などでご確認ください。
 - ※ 軽いせきや鼻水だけの場合は、様子をみながら翌日かかりつけ医を受診しましょう。
 - ※ 石川県医療・薬局機能情報提供システム (<http://i-search.pref.ishikawa.jp/>)、または携帯電話でも検索できます。
- 携帯電話からのアクセス方法
以下のURL(ホームページアドレス)を、携帯電話のWebブラウザのURL(ホームページアドレス)欄に入力するか、携帯電話がQRコードに対応している場合には、右の画像を読み取ってアクセスしてください。
<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/mobile/index.html>



休日夜間急患センター (365日毎日診療)

- 金沢総合健康センター夜間急病診療所(内科・小児科)
 - 所在地 金沢市大手町3-23(健康プラザ大手町西館1階)
 - 電話番号 076-222-0099
 - FAX番号 076-222-5566
 - 診療時間 午後7時～午後11時
- 南加賀急病センター(小児科・内科)
 - 所在地 小松市向本折町60(小松市民病院南館1階)
 - 電話番号 0761-23-0099
 - FAX番号 0761-23-0014
 - 診療時間 月～土 ▶ 午後7時～午後10時30分
日・休日等 ▶ 午前9時～午後0時、午後1時～午後10時30分
※「休日等」とは、祝日並びに1月2日、3日及び12月31日をいう



夜間小児救急電話相談 (365日毎日実施)

お子さんが夜間に急な病気や事故で具合の悪い時、どのように対処すればよいか、電話で小児科医等がアドバイスしています。

電話番号

#8000 または 076-238-0099

受付時間

午後6時～翌朝8時

なお、休日当番医や休日夜間急患センターで受診され、入院や手術の必要がある場合は、救急病院等と連携して診療してもらえますので、ご安心ください。

日頃から、何でも相談できる「かかりつけ医」を持ち、早めの受診を心がけましょう

石川県健康福祉部地域医療推進室

これはその改訂版ですが基本的には全然変わっていません。

比較的症状の軽い方へのお願い

休日当番医

- 休日の応急的な医療や軽症の方に対応するため、地域の診療所が当番で治療にあたっています。



Ex.

比較的症状の軽い方へのお願い

- 休日の危急的な医療に対応するため、地域の診療所が当番で治療にあたっています。
※軽いせきや鼻水だけなど軽症の場合には、様子をみながら翌日かかりつけ医を受診しましょう。

休日当番医

軽症の人に対応する為ではなく、応急処置とトリアージの為に診療している訳で、当番医も大手町も#8000も同様であります。



これはテレビドラマにもなり御存じだろうとおもいますが、小児科が消滅の危機にあった兵庫県立柏原病院の小児科医を守る会の配布パンフレットであります。パンフレットは医師からのトリアージではなく、親からみた症状別トリアージで、我々がみても非常に参考になります

。

多い受診数

- ・ 当番医は医療機関の可能処理患者数を超している事が多い。
- ・ 病院勤務医は当直ではなく、勤務に近い状態である。



かかりつけ医機能の回復・増強

コンビニ受診を減らす(家庭でのトリアージ等の広報)

センター化へ(医師個人でも応援・交替可)

くしくもその会スローガンは「かかりつけ医をもとろう」「コンビニ受診を控えよう」で、家庭でのトリアージを普及させ、その運動で実際時間外患者数が減りましたし、小児科医も多数確保できました。

病院機能と分業

- ・ 病院(勤務医)は一次のみならず二次医療機関の役目を担っている。
- ・ 二次後方病院として実動は県中と医療センターに偏向。



後方病院はメンツを捨て二次医療機関に撤する

一次の時間外医療に小児科医の配置不要

||

効率的医師配置

また、効率の良い医療配置が必要なのではないでしょうか。

富山市・医師会急患センター診療案内

	昼間	夜間
診療日	日曜・休日 12月31日～1月3日 お盆8月15日・16日	毎日 月・火曜日の外科は新聞掲載の当番医療機関へ
診療時間	午前9:00から 午後17:30まで	午後7:00から午前2:00 (休日は、午後6:30から午前2:00) 眼科：休日を除く月～金曜日 19:30～22:30
診療科目	内科・小児科・外科 眼科・皮膚科：第2・4日曜日 耳鼻科：第1・3日曜日	内科・小児科・外科・眼科

- 診療日以外の眼科・皮膚科・耳鼻科（休日昼間）は当番医で診療します。
- 利用される方へのお願い（深夜の待機診療体制について）
午前2時から午前6時までは急患等に備えて医師・看護師が待機していますが、通常の診療は午前2時までに受診するようお願いいたします。

富山市・医師会急患センター TEL 076-425-9999

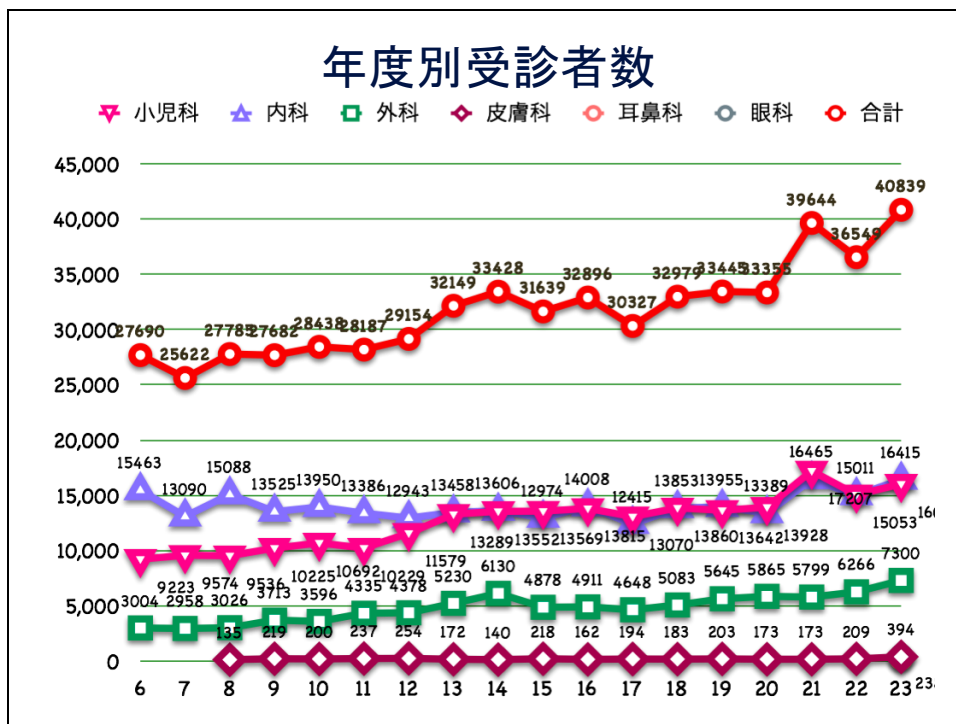
〒939-8282 富山市今泉北部町2番地76（富山市民病院第1駐車場奥）

7月の出向

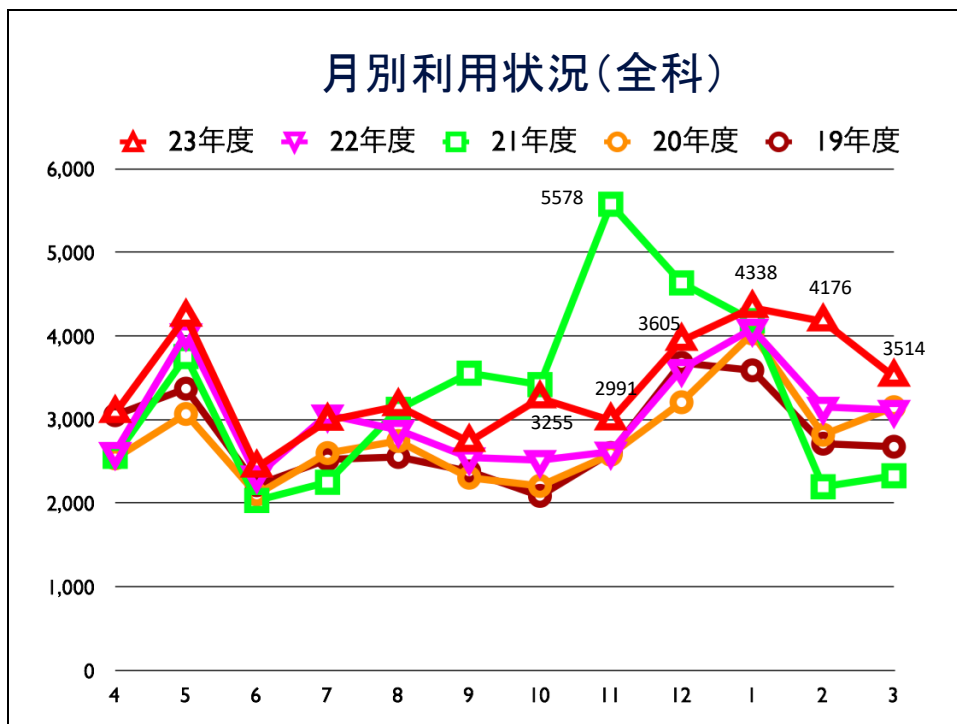
	医師会	勤務医	大学
休祭日	6		0-1
平日準夜	18	8	4



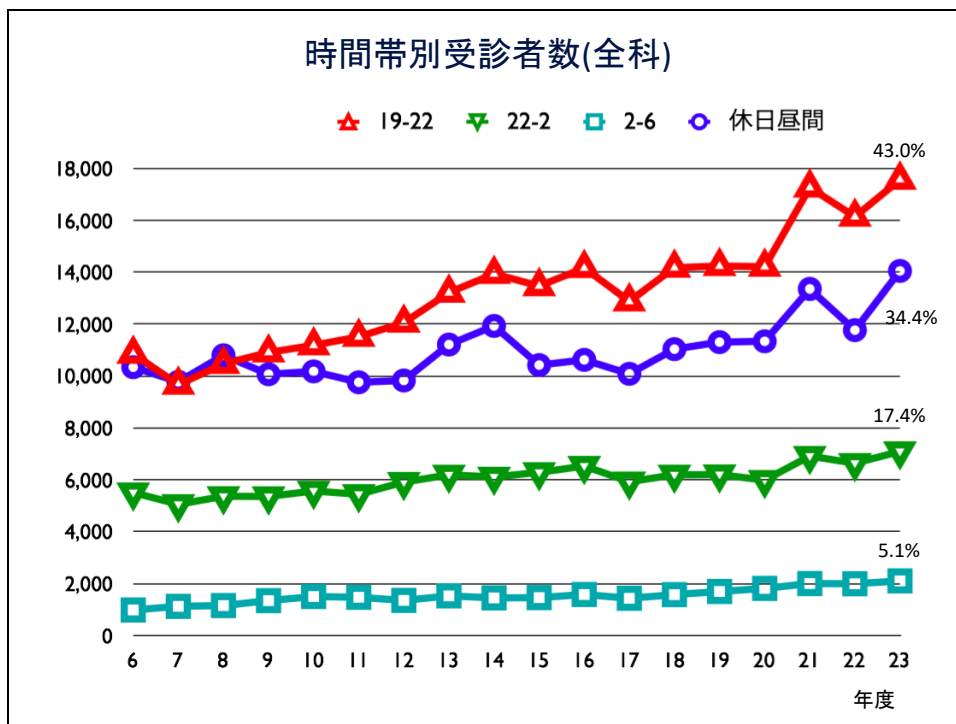
昨年から新規にできた富山市の急患センターの資料を頂いたので紹介します。小児科に関して休祭日と毎日夜7時から深夜2時まで診療しています。年末年始、ゴールデンウィークは日中は2人体制で診療しているそうです。その他の時でも多い時は医師会から応援が出ているようであります。CT等検査は敷地内の富山市民病院に依頼、二次病院は指定された病院（県中、富山市民、富山日赤、済生会、大学）で富山市民病院は当番以外には行けないそうです。日勤は主に医師会、準夜は3/5は医師会、2/5は勤務医、その2/5の1/3が大学から出向しているそうです。なお、経営は富山市、運営は医師会という事だそうです。



年間4万人位受診しているようで、センター化によりある程度患者数は増える事は考えられます。



全科の統計ですが年間では12月から2月と5月・ゴールデンウィークでしょうか、が多いようです。



その時間帯別です

時間帯別の患者数の推移を示します。特に夜間は当然ですが週に7回あり、休日昼間はそれよりも回数をはるかに少ないために、1日当たりの患者数が多いのは休日日中とご理解いただければと思います。。

ただ、救急医療センターにおける近年の患者数の増加は主として19時から22時のいわゆる準夜帯に属する患者数の増加がしめています。

平成23年度 年末年始受診者数

		夜間					昼間					合計
		内科	小児科	外科	眼科	小計	内科	小児科	外科	眼科	小計	
12/30	金	65	71	36	16	188						188
12/31	土	65	53	23		141	138	137	78		353	494
1/1	日	73	50	33		156	111	110	60		281	437
1/2	月	67	37	22		126	158	140	70		368	494
1/3	火	56	45	24		125	123	76	48	16	263	388
合計		326	256	138	16	736	530	463	256	16	1,265	2,001

年末年始の受診者数です

平成24年2月連休受診者数 (24年2月10日～12日)

		夜間					昼間					合計	
		内科	小児科	外科	眼科	小計	内科	小児科	外科	眼科	皮膚科	小計	
2/10	金	30	36	18		84							84
2/11	土	89	73	22		184	193	228	37			458	642
2/12	日	61	77	16		154	131	163	30	21	14	359	513
合計		180	186	56	0	422	324	391	67	21	14	817	1,239

- ・ 2月のインフルエンザの流行期の連休の受診者数です。

全国をみれば色々な方法があると思われませんが、現在行われている富山の現状を紹介致しました。

結語

少ない小児科医対策および耳鼻咽喉科医対策

- ・中央医療圏として一次の時間外診療・当番医のセンター化
- ・時間外・休祭日の診療の一次・二次の分業化

多い受診者対策

- ・かかりつけ医機能の復活
- ・家庭でのトリアージの普及

結語であります

- ・少ない小児科医対策として
中央医療圏として一次の時間外診療・当番医のセンター
時間外・休祭日の診療の一次・二次の分業化
- ・多い受診者対策として
かかりつけ医機能の復活
家庭でのトリアージの普及

がこれから必要なのではないかと私なりに考察致しました。以上です。

資料は白山野々市医師会、金沢市医師会、県立中央病院、金沢医療センターの御協力を得ました。県中の数値はQQ外来へ受診した15歳以下の数値で外科疾患なども含まれております。